

IEEE Student Branch Leadership Training Workshop (SBLTW) 2024 in Tokyo

IEEE 明治大学 SB Chair：上垣外将隆

IEEE 東京理科大学 SB Chair：三木淳央 (感想)

IEEE 東京農工大学 SB Chair：源関亮太 (感想)

概要

本イベントは、年に1回、全国の Student Branch (SB) に所属する学生が1か所に集まり、各 SB での活動や運営、学生の研究内容について話し合ったり、グループワークを通じて学生の研究スキルなどを向上させたりする場である。学生同士で交流することで、意見交換ができるだけでなく、人脈の輪を広げることにもつながる。つまり、SB 活動をより活発にするきっかけになるとともに、プライベートでの交友関係も深めることができる。

特に、Student Activities Workshop(以下「ワークショップ」)では、毎年異なる内容のテーマでグループワークが行われる。今年は、「わかりやすい論文発表スライドを作ろう!」と題し、聴講者に伝わりやすい発表スライドの作り方について講座とグループワークを通して学んだ。

また、今年度は、2024年8月29日~9月1日まで同じ会場で行われた R10 SYWL Congress (以下「SYWL」)との併催であった。多くの参加者は本イベントと合わせて SYWL にも参加し、さらに視野を広げてスキルを向上させることができた。



SBLTW 2024 in Tokyo 集合写真

プログラム

日時：2024年8月29日(木) 9:30～16:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室



詳細：

9:30 – 10:00 Registration

10:00 – 12:30 Student Activities Workshop (Organized by 明治大/東京農工大/東京理科大 SB)

10:00 – 10:05 Opening

10:05 – 10:55 Lecture & Question (Dr. Akihiko K. Sugiyama)

10:55 – 11:40 Activity & Making Slides

11:40 – 12:25 Presentation & Feedback

12:25 – 12:30 Closing

12:30 – 13:30 Lunch Break

13:30 – 15:30 Student Branch Activity Report (Poster Session) / Discussion

15:30 – 16:00 Closing Session

- ・ Award Ceremony
- ・ Encourage Volunteer Participation in MGA and R10 (Prof. Nishimiya)
- ・ Closing

16:00 - Move to the R10-SYWL 2024 Congress Venue

イベント URL：<https://sites.google.com/view/ieeesbltw2024>

参加 SB

会津大学・大阪大学・関西大学・九州大学・熊本大学・香川大学・室蘭工業大学・信越支部・静岡大学・千葉商科大学・同志社大学・東京電機大学・東京農工大学・東京理科大学・東北大学・奈良先端科学技術大学院大学・福井大学・北海道大学・広島支部・名古屋大学・明治大学・早稲田大学・琉球大学 (23 SBs) + 岡山理科大学(設立検討中)

レポート

《Student Activities Workshop》

本ワークショップは、例年、開催地の SB によって企画され、グループワーク交えた活動を楽しめる。今年は、明治大学 SB・東京農工大学 SB・東京理科大学 SB の 3 つの SB による企画運営のもとで、「わかりやすい論文発表スライドを作ろう！」をテーマにワークショップが行われた。

はじめに、「どのようにしたら他の人に伝わりやすい論文発表ができるのか」について、IEEE Fellow 会員として数多くの講演をされている 杉山昭彦 様にご講演いただいた。講演の中では、スライドを作る上で必ず気を付けなければならない文字サイズや文章量、グラフの見せ方などについて伝授いただいた。また、研究を論立てる上で、「研究の背景や価値」「研究の手法」「研究により解決した課題」という三点分析を綿密に行うことの重要性も教えていただいた。短い時間ながらも簡潔かつ具体的なご指導で、すぐに自分の論文発表資料と比較検討できるほどわかりやすかったこともあり、SBLTW 参加学生は皆さん熱心に聴講していた。



杉山様のご講演

つぎに、学生がグループにそれぞれ分かれ、メンバー過去に使用した論文発表スライドについて、講演内容を踏まえて見直すというディスカッションが行われた。ディスカッションに使用するスライドは、過去に学会の口頭発表歴がある人の中で、今後に向けて発表スライドをブラッシュアップしたい方などを募集し、提供いただいたものを使った。グループディスカッションでは、杉山様の講座内容をグループで振り返り共有したうえで、メンバーのスライドについて、具体的な問題点やその改善法を議論した。最後に、議論内容をスライドでわかりやすくまとめて発表し、すべてのグループに対して杉山様から貴重なフィードバックをいただいた。

本ワークショップを通して、よりよい論文発表をするためにはどうしたらよいかについて、「講座で学ぶ→ほかの人と議論しまとめる→講師からフィードバックを受ける」というイン/アウトプットの一連の流れで学ぶことができた。グループディスカッションも盛り上がったことで、たいへん印象に残るワークショップとなり、今後の論文発表の礎になったことは間違いない。



グループディスカッションの様子



グループ発表の様子

《Lunch Break》

昼食は、SBLTW の会場で用意されていたランチボックスを頂いた。彩りが良い弁当をおいしく食べ、午後に向けてのエネルギーをチャージできて満足だった。



ランチボックス

《Student Branch Activity Report (Poster Session) / Discussion》

本セッションでは、各 SB が行う活動や研究についてポスターに示し、学生同士で意見交換をした。ポスターには、各 SB がどのような活動をしているのかがわかりやすくまとめられていた。どの SB も、数多くの興味深いイベントへの参加・開催をしていることが報告され、なかには、その場で共催・協力依頼の話し合いをしている SB もあった。

参加した学生の様子を見ると、他の大学の学生と楽しく懇談する学生もいれば、他の大学はどのような場所で何の研究をしているのかを興味深く聞いている学生もいれば、他 SB の活発な活動を知って驚いている学生もいた。自分たちの SB 以外との交流を深められたことで、自分の大学以外の学生と交友関係を持って、研究などの学生生活や SB 活動に対してよい刺激を受けることができた。



ポスターセッションの様子

《Award Ceremony》

本セッションでは、昨年に SB を設立した大学に対する記念式と各種 Award に対する表彰式が行われた。

～SB 設立記念～

2023 年に、千葉商科大学 SB および九州大学 SB の 2 つの SB が設立された。これを記念し、本セッションにて各 SB にバナーの授与が行われた。これからの益々のご活躍を期待するとともに、我々の SB とも共催イベント等を通じてさらに仲を深められたら幸いである。



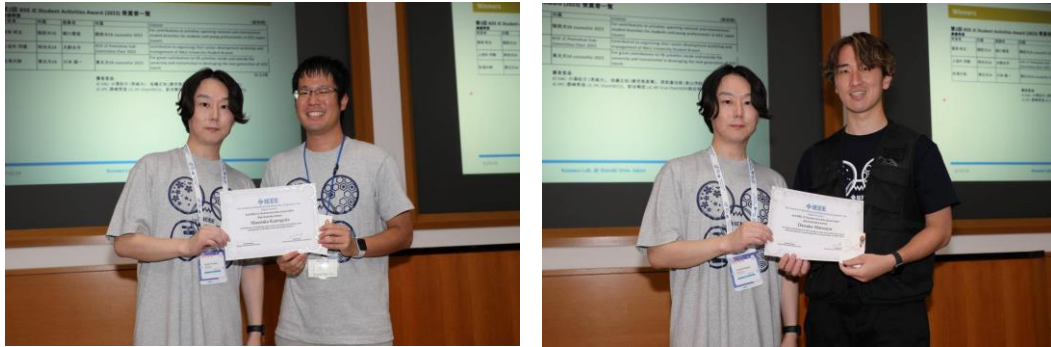
千葉商科大学 SB



九州大学 SB

～IEEE Japan Council Student Activities Award 2023～

本 Award は、2023 年に IEEE JC SB での学生活動及びボランティアに特に優れた貢献をした、IEEE JC SB 所属の学生会員を表彰するものである。今回は、Best Activities Award として、関西大学 SB の豊岡さん、明治大学 SB の上垣外、東北大学 SB の松浦さんの 3 名が表彰された。受賞記念として、表彰状とギフトカードが授与された。これからも、SB 活動がより一層活発に行われるように努めていきたい。



Student Activities Award 表彰式

～IEEE Japan Council Outstanding Student Branch Counselor Award～

本 Award は、2023 年に特に優れた IEEE JC SB での活動及びボランティア、サポートをしたカウンセラーを表彰するものである。今回は、会津大学 SB の Dr. Incheon Paik が表彰された。受賞記念として、記念プラークが授与される。

《Encourage Volunteer Participation in MGA and R10》

本セッションでは、IEEE にはどのような会員がいるのか、また、併催される R10 SYWL Congress とはどんなイベントなのか、JC-SAC Secretary の西宮先生より説明いただいた。IEEE には、学生だけでなく、若手からベテランまで幅広い世代の技術者・研究者や、多くの女性技術者らも所属している。また、R10 はアジア圏の広い範囲をカバーしており、その所属する国籍や文化も多様である。これらの背景から、R10 SYWL Congress では多くの国や文化の違いを持った学生や研究者らと出会うことができ、技術的に、文化的に自身の価値観を向上させることができる貴重な機会であることを西宮先生よりお話しいただいた。“とにかく楽しむ”ように心がけるきっかけになったとともに、IEEE での活動へのワクワク感を向上できたと感じる。



西宮先生によるご講演

参加学生の感想

私は SBLTW には 3 年目の参加で、今年は Student Activities Workshop の運営委員にも参加させていただきました。特に、自分の研究を伝えるためには、研究成果などの強いメッセージを論理的に伝えること、わかりやすい図を駆使することが必要であり、そのためにも事前によく考えて論文をまとめる必要があることの重要性に改めて気づきました。ワークショップも無事に終わり、本企画を進めてきた立場として非常に安心するとともに、学ぶこと気づくことが大きく、本ワークショップを企画し参加できたことがたいへん嬉しかったです。また、ポスターセッションでは多くの SB と活動内容について共有でき、全国の SB と共に活動する場を作りたいというワクワク感が湧きました。

イベントを通じて技術的なスキルを磨けただけでなく、多くの SB の学生と対面で交流し意見交換できたことで、“学生らしく楽しく成長”できたのではないかと感じています。たいへん貴重な機会に参加させていただきありがとうございました。また、SBLTW の開催にご尽力いただいた先生方や関係者の皆さま、一緒に盛り上げていただいた SB の学生の皆さまに厚くお礼申し上げます。

SB の広報や本レポートを見て、少しでも多くの学生や教員が SB の活動に興味を持っていただけると幸いです。

(明治大学 SB 上垣外)

地元東京で開催された SBLTW では、ワークショップの企画・運営ならびに一参加者として有意義な時間を過ごすことが出来ました。遡ること 1 年前、私は関西大学で行われた SBLTW にも参加していました。そこは 1.頼もしい仲間と 2.セッションを通して新たな知見を得ることが出来、今回新たに参加される方へ受け継ぐため、ワークショップの運営サイドに一役立てること、ワクワクしていました。

当日は台風が迫る中、全国から IEEE のもとポスター片手に多くの SB メンバーが集まり、オープニングからクロージングまであっという間のひとときでした。中でも印象的であった回は、本 SB も共催した、わかりやすいプレゼン資料のワークショップでした。講師の方からのセミナーで得た知識のもと参加者同士楽しく議論をしながら、将来的に見やすいスライドを作る意識を持つきっかけにすることが出来ました。

毎度参加する度、「こんなに有意義な会はぜひ全国の多くの学生の方にも味わっていただきたい！」と強く感じています。開催にあたり尽力いただいた IEEE 関係者の方をはじめ、明治大学・東京農工大学の皆様に感謝申し上げます。活気ある IEEE の活動を継承してゆくため、本経験のもと IEEE SB 活動のネットワークの拡大に今後も貢献して行きたいと思っております。

(東京理科大学 SB 三木)

今年で参加が 2 回目となる SBLTW2024 において、今回僕は初めて運営側でワークショップを企画することになりました。周りに先輩方が多いため緊張しっぱなしでしたが、自分にできる役割を果たそうと出来る限り貢献できるように頑張りました。これを通して、企画における実現性や現実性を考慮できる、すなわち客観視する視点が養われたと思います。そのため、運営側で企画を進めていくことは自分にとっても成長できる非常に有意義な機会となりました。

さて、今年は「わかりやすい論文発表スライドを作ろう！」というテーマで企画をしましたが、参加した方々は楽しめたでしょうか。実はこの 3 時間のワークショップのために、企画会議を 8 回以上行い、よりよいものとなるように運営一同で推敲を重ねてきました。参加することで自分のキャリアアップにつながりつつ、留学中の方と交流もできるために選ばれたテーマですが、ポスターセッションと合わせてたくさんの方とつながりを持てる機会を、参加者に提供できたのであれば非常に嬉しいです。

最後になりますが、本ワークショップを主催共催していただいた明治大 SB Chair の上垣外さん、共催の理科大 SB 三木さん、さまざまな側面から手助けしていただき本当にありがとうございました。また、本ワークショップに参加していただいた皆様、ワークショップ内の拙い進行中、自ら積極的に動いていただきありがとうございました。おかげ様で、タイトなスケジュールリングの中でもスムーズに進行ができました。来年の SBLTW も参加するつもりですので、その際は改めてよろしく願いいたします！

(東京農工大学 SB 源関)